さらなる飛躍の契機に

新潟市 黒埼町 合併で一体的な都市圏の確立を

新潟市・黒埼町
合併問題協議会
［任意の合併協議会］

黒埼町アラカルト

（　）は新潟市

○人口	23,605人（494,769人）
○世帯数	6,792世帯（182,534世帯）
○1世帯当たり人員	3.48人（2.71人）
○年齢別3区分人口	
・年少人口（0～14歳）	約18%（15%）
・生産年齢人口（15～64歳）	約69%（71%）
・老年人口（65歳以上）	約13%（14%）
○産業別就業人口	
・第1次	約8%（3%）
・第2次	約28%（24%）
・第3次	約64%（73%）
○面積	25.97㎢（205.94㎢）
○土地利用	
・市街化区域（既に市街地を形成している区域および、おおむね10年以内に優先的かつ計画的に市街化を図る区域）	約15%（38%）
・市街化調整区域（市街化を抑制すべき区域）	約85%（62%）
○財政（平成11年度一般会計当初予算）	82億円（1,962億円）

※面積を除き「平成7年　国勢調査結果」（総務庁統計局）による
※面積はH8.10.1「全国都道府県市区町村別面積調」（建設省国土地理院）による
※市街化区域と市街化調整区域の面積は、H9.3.18新潟県告示第733号による

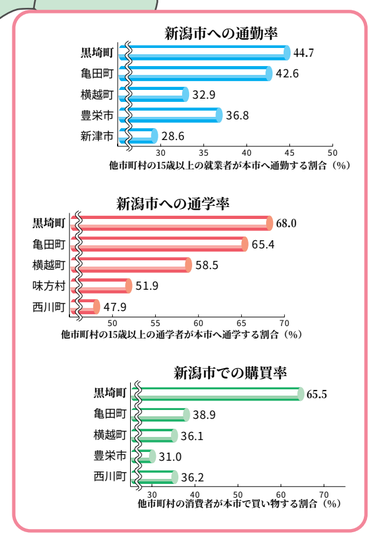
一体化の進む両市町の境界付近

緒立温泉の源泉をひいた、入浴施設がある「黒埼荘」

豊かな実りをもたらす南部の田園地帯

熱気あふれる黒埼まつり

商業集積が進む国道8号沿線



生活実感では既に同じまち

通勤・通学・買い物で深まる一体化

平成7年の国勢調査によると、黒埼町から本市への通勤率（15歳以上の就業者が本市へ通勤する割合）は44・7％（以下、亀田町、豊栄市、横越町）と、近隣市町村の中で最高となっています。

15歳以上の通学率についても同様なことが言え、実に町の通学者の68・0％（以下、亀田町、横越町、味方村）が本市へ流入。買い物先についても、平成8年3月の県広域商圏動向調査報告書によると、町住民が本市で買い物をする割合は65・5％（以下、亀田町、西川町、横越町）と、次点の38・9％を大きく引き離しています＝**グラフ**＝。

こうした数値は、道路や交通機関などの発達を背景に、新潟都市圏域内の交流が活発化するとともに、住民生活レベルでの一体化が進んできた結果とも言えます。

とりわけ地形的に本市に大きく食い込んでいる黒埼町と本市は、現在の行政区域にかかわらず、生活実感として既に同じまちと言えるほど緊密になっています。

両市町の共通課題は共同で対応

両市町では、住民の生活圏・行動圏の広がりに伴い多くの共通課題を抱えていることから、既に可能な範囲で共同した対応をとっています。

例えば、ごみ・し尿については、両市町および亀田町、横越町と連携し、広域清掃事務組合を設置。亀田焼却場などを共同運営しています。

また、本市の青山斎場では、黒埼町民の火葬を受託。消防の分野でも協定を結び、相互応援体制をとっています。

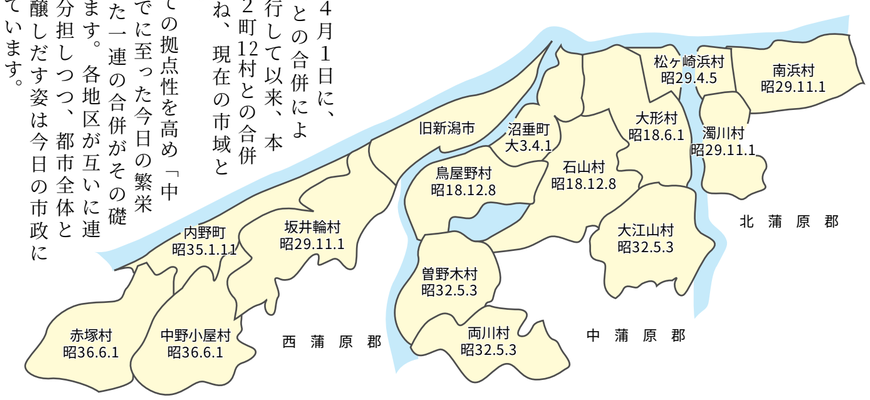
これらは、現在の市町村制度を補完する取り組みとして行っていますが、合併によってより効率的な自治体経営ができます。

新潟市 合併の歴史

2町12村の合併が繁栄の礎に

連携と機能分担で都市の魅力アップ！

明治22年4月1日に、関屋古新田との合併により市制を施行して以来、本市は8回・2町12村との合併＝**図**＝を重ね、現在の市域となりました。

都市としての拠点性を高め「中核市」にまでに至った今日の繁栄も、こうした一連の合併がその礎となっています。各地区が互いに連携し機能を分担しつつ、都市全体として魅力を醸しだす姿は今日の市政にも活かされています。

［新潟市域の移りかわり］